

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念を踏まえて、今年度は職員全員で検討し新たな理念を掲げている。常に職員が確認できるように掲示している。	法人の理念を基に、今年度新たに、事業所独自の理念を作り上げた。「笑顔あふれる生活ができるように」を方針として掲げ、ホール内に掲示し、朝礼や申し送り、職員会議等で唱和しながら理念を共有し、実践に繋げサービス向上に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の一員として、公民館の文化祭への出品協力や地域の行事、清掃活動に参加している。近隣の方々と顔馴染みになり散歩に出かけた際などは挨拶を交わしている。中学生の職場体験受け入れや認知症カフェに参加している。	事業所は地域の一員として地区の清掃活動や公民館への出品協力など積極的に参加が図られている。認知症カフェへの参加は顔なじみとなり、地域となじんできている。中学生の職場体験、専門学校の研修の場としても提供するなど地域交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方から介護に関する問い合わせがあり、助言等行っている。運営推進会議の参加者である、自治会長や民生委員の方々とは施設内での支援の方法の他、地域内の情報について意見交換している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月開催で、活動状況報告を行っている。また、意見交換ではお客様からの要望や、他の参加者からは気付いた点をあげてもらい、サービスの向上に生かしている。	運営推進会議は定期的に行われ、各地域の会長、市の担当者の参加を得て、事業所の活動状況報告とともに参加者から質問、要望など気軽に言える雰囲気づくりに努めている。会議内容については職員にも周知を図っている。家族、利用者の参加も得よう声掛けを行い、事業所としてのサービス向上を目指している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を中心に、市の担当者から適宜指導、助言をいただき良好な関係を築けている。認知症に関する情報提供を含む協力もおこなっている。行政監査の際頂いた指摘事項についてすぐに改善しサービスの向上に努めている。	市担当者も運営推進会議の一員であり、地域ケア会議を通じて良い関係ができており、認知症に関する情報提供も行っている。日頃から相談、助言、協力連携を図りながら、市町村との関係づくりに努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修を行っている他、マニュアルをいつでも確認できるようになっている。常に危険を予測し見守りや職員間の連携を大切にしている。	身体拘束に関するマニュアルを整備し、定期的に職員全員で研修を行い、その研修内容についての記録を職員個々から提出してもらう等、具体的な形で身体拘束しないケアに取り組んでいる。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修を行っている他、マニュアルをいつでも確認できるようになっている。事例検討やカンファレンス等を通してお客様の心身の状態を把握し、職員が共通した認識でケアに取り組めるように努めている。	虐待に関するマニュアルが整備され、身体拘束と同じく研修、記録の提出を行い振り返りの機会を設けている。事例検討やカンファレンスを通し虐待防止の理解の浸透や法令遵守に向けた取り組みを実践している。また、管理者は現場に入り職員の様子を伺いながら相談事にも応じたりして虐待の事前防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修資料はあるが、定期的な研修は行っていない。現在成年後見制度を利用中の方がおり、利用開始前には関係機関と会議を保持り、必要時連携を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用パンフレット、重要事項説明書、契約書、個人情報使用同意書、入居時確認事項説明書を丁寧に説明し、理解し納得していただけるよう努めている。不明な点は都度尋ねて頂くよう説明している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口、意見箱の設置をしている。機会があれば来所していただき、コミュニケーションを持ち可能な限り家族の思いを吸い上げられるよう努めている。	家族には毎月のお便りで近況報告を行っている。また、面会時には気やすく何でも話してもらえる雰囲気づくりに努め、意見や要望を伺うようにしている。そこで聴かれた意見や要望は職員会議で話し合い運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、ユニット会議の開催、契約更新時の面談などを通して意見や要望を取り入れるようにしている。日常のコミュニケーションも大切にしている。	管理者は会議やミーティング時に職員の意見や要望を聴く機会を設け、日頃の思いや意見を述べやすい雰囲気づくりに努めている。出された意見は職員全体で話し合い運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のスキルアップ研修、資格取得など支援体制がある。個々の努力実績や勤務状況などを評価し、今後の業務に繋げていけるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は積極的に行っている。研修資料は常に確認できるようにしている。外部研修においても出来るだけ多くの職員が研修に参加できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内6事業所においてグループホーム協議会を組織し情報交換を行いサービス向上に努めている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面接時には介護支援専門員から事前に情報を得ておいて、自然な雰囲気作りに努めたり、施設見学に来ていただいて接する機会を多く持てるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面接時は一方的に質問することなく、生活歴や現病歴を伺う事で家族の思いや不安を受け止め、事業所に対する要望等を述べやすい雰囲気作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面接時に本人や家族のニーズを的確に把握できるように、総合的に捉えられるアセスメントツールを用いて課題分析を行っている。その際他のサービス利用の必要性があれば関係機関と連絡調整できるよう連携がとれている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各自の生活能力や得意な事を見極め、家事や軽作業、行事の準備など一緒にいってお客様から学んだり、支えあう関係が築けている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	広報誌でホームでの様子を伝える事によって情報を共有したり、行事に参加して頂く他に、医療機関との仲介を図り、共に本人を支えていける関係構築に努めている。	毎月の状況報告の他、広報誌で日々の活動状況の写真を載せ利用者の暮らしぶりを伝えている。面会時には計画作成時のカンファレンスにも参加してもらうなど関係づくりに努めている。定期受診、衣替えの時期や理美容院の利用等、協力的な家族も多い。必要時は相談して医療機関との仲介も図り、共に本人を支えていく姿勢を構築している。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の店舗や市、カフェなどに出かけて、住民との交流を図っている。知人に遭遇し話が弾むこともあった。電話や手紙で頻りにやり取りしているお客様もいる。	一人ひとりの生活習慣を尊重し在宅からの関係が途切れない対応に努めている。友達が柿を持参したり、時には地域のカフェに出かけ住民との交流関係を継続している。家族とも墓参りやドライブを兼ねた外食を楽しみ、携帯電話で家族の声を聞き笑顔になる人もいれば手紙を書いて楽しんだり、馴染みの人や場所との関係継続の支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士の関係性の把握に努めている。ホールで座る席順に配慮したり、お客様相互のコミュニケーションがスムーズに行えるよう、必要に応じて職員が関わっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も家族の要望に応じて情報提供を行っている。施設や病院にその後の様子をうかがいに行くこともある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	初回面接時や日頃の何気ない会話や表情から、個々の要望を的確に把握できるよう努めている。また定期的なカンファレンスを通して情報の共有に努めている。家族からも情報収集している。	初回面接時や入所後の日々の暮らしの中でもゆっくりと問いかけながら、発する言葉や表情から思いを推し図り、利用者同士の何気ない会話の中からも本人の意向の把握に努めている。得られた情報はカンファレンスを通して話し合いを持ちながら職員間で共有し、日々のケアに繋げている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からの聞き取りで不十分な場合は、家族や親戚、ケアマネ等から情報収集を行っている。全事業所で統一されている「認知症対応型共同生活介護フェイスシート」を用いながら本人が望む暮らしの把握に努めている。	利用開始前に本人、家族から生活歴や馴染みの暮らしについて聴き取るとともに、前事業者の担当者からもプライバシーに配慮しつつ情報を得よう努めている。入所後も本人の話の中から馴染んできた暮らし方についてを把握し、その人に合わせた対応を心がけている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的なアセスメントの他、状態変化時にも随時行い、心身の状態や有する能力の把握に努めている。またカンファレンスでは情報と課題を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	どんな入居生活を望まれていて、その望みを可能にするために我々に出来ることは何かを常に意識している。地域の一員として生活していけるよう、面会時や手紙、電話等で連絡を取り合い意見を参考に計画を見直している。	本人、家族の意向の把握に努めるとともに、職員が日々の関わりの中で把握した情報や気づき等を反映させた介護計画を作成している。また、サービス実施状況について、本人、家族の意見を伺いながら定期的にモニタリング、カンファレンスを繰り返して本人の思いが反映された介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のお客様をより深く理解するために、サービス計画書に連動した、介護記録用紙を使用している。情報を共有しながら、カンファレンスや計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診、買い物、散髪、お墓参り等の外出支援や、Dsの送迎車を使つての初詣やお花見ドライブなど地域との繋がりを支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域内の医療機関との連携や、医療介護連携システムの活用。公共機関や商業施設、カフェの利用など地域資源を活用して生活を支援出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科の協力医による月1回の往診の他、在宅当初からの主治医への定期受診や必要に応じて専門医への受診を支援している。在宅歯科医療連携室の歯科衛生士の協力のもと、協力歯科医院の往診を受けられている。	本人、家族の希望する専門医療機関への通院は基本的に家族同行となっているが、事情により職員の同行通院もある。その際の情報交換は口頭で行われている。また、毎月嘱託医の往診もあり、殆んどの方が月1回の定期往診を受けており、本人、家族の安心となっている。他、在宅歯科医療連携室の歯科衛生士の訪問協力もあり、必要時は訪問歯科医による治療を受けることも可能となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職が常勤であり、日常の健康管理や協力医、医療機関との連絡調整がスムーズ行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は本人、家族の同意を得て介護情報提供書を提出し、退院前には医療機関を訪問し、情報収集を行いスムーズに入所生活に戻れるように連携が取れている。また、医療介護連携システムを活用し情報の共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設での看取りを方針に掲げている。契約時に重度化、終末期に対する指針を説明している。終末期との医師の診断があった時点で、家族と看取りに係る同意書を交わして支援を行っている。	入所時に重度化した場合や終末期の対応について、本人、家族の意向を聴きながら事業所で出来る範囲の説明を行い同意を得ている。緊急時や状態変化時は嘱託医の協力の下、本人、家族の安心と納得が得られるよう対応している。事業所では看取りの経験もあることで状況変化のたびに話し合いを繰り返す積み重ねも行っている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護職員を常勤で配置している。マニュアルを整備している。必要時、急変時の対応や医療器具の使用方法について実技訓練を行っている。AEDは1階2階それぞれに配置している。	急変や事故発生時マニュアルを整備し、事業所全体で救命救急法についての研修会を行っている。職員全員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い実践力の向上に励んでいる。加えて看護職員が常勤していることで全職員が急変や事故発生時の行動指針について学びを継続している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練のみは定期的に行っている。近隣住民、自治会長、地元民生委員には入所者の状況を理解していただいている。備蓄や防災セットを用意し、いつでも持ち出せるようにしている。	併設施設との合同訓練や夜間想定訓練も実施している。佐渡ハザードマップ等で事業所の状況を把握し、災害時の対策に活かせるよう努めている。また、備蓄の備えや暖を取るための備えもあり、利用者の状況については地域住民からの理解を得ている。今後、より多く近隣の方々から駆けつけてもらえるよう職員間でも話し合っている。	佐渡ハザードマップ等で事業所の状況を把握し、災害時の対策に活かせるようにしている。今後更に多くの地域住民からの参加が得られるようには、回覧板での伝達方法を再開する等、継続した工夫をして行くことが期待される。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報マニュアルを整備し尊厳を支える個別的なケアを提供できるように努めている。排泄ケア時の言葉かけや対応に細心の注意を払っている。記録は目に触れないように注意し、情報を外部に持ち出さないように徹底している。	接遇についての研修会が行われ一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損なわないケアに努めている。利用者のその人らしい姿を大切に、目立たずさりげない言葉かけに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を表したり、自己決定が出来るよう言葉かけを工夫するなど環境づくりに配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムを尊重し、本人の希望を優先している。居室で過ごされたい場合はその思いを尊重し支援している。一人ひとりが孤立しないよう勤めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行き付けの理美容院に出かける際の外出支援の他、外出困難な方には出張サービスを受けられるよう支援している。また、男性は髭剃り、女性は整髪等の細やかな支援に努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買出しに出かけたり、定期的にドーナツやお弁当、出前の日を設け好みの物を食べられる機会を作っている。毎日片付け等協力していただいている。また行事食と一緒に調理し楽しんでいる。	利用者の食の好みや苦手なものを捉えながら、食事は暮らしの中で大きな楽しみとなるよう位置付けている。行事ごとに目先の変わった献立や敬老会などではオードブルを囲み賑やかな食卓となり、利用者は職員と共に食事を楽しみ後片付けに至るまで、一日の大切な活動の場面として力を発揮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	標準体重に基づき主食量は個々に計測し、栄養とカロリー両面で配慮されている。摂取量が少ない場合は栄養剤や代食で補っている。また自力で困難な場合は介助し摂取量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的に歯科衛生士のブラッシング指導を受けており個々の状態に応じて起床時または、毎食後口腔ケアの促し見守り介助を行っている。夜間は義歯洗浄剤を使用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要に応じてリハビリパンツやパットを使用しているが、トイレ誘導や同行等で失敗を未然に防ぐように支援している。また、必要に応じて居室内にPTイレを設置し、負担なく排泄出来るよう支援している。	一人ひとりの排泄パターンを把握しながら自尊心に配慮して、利用者の表情や行動から敏感に察知し、その人に応じたさりげない声掛けでトイレ誘導することで、羞恥心や不安なく気持ち良く排泄できるよう支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便困難者には、介護計画書に起床時の冷水飲用と運動、温湿布、腹部マッサージ等を盛り込み実施しており、排便習慣の確立に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望を尊重し、気分転換や清潔保持が出来るよう配慮している。入浴のタイミングにも配慮している。冬至にはゆず湯なども楽しんでいる。	入浴日は設定してあるが、職員が一方向的に決めてしまわず、利用者のその日の希望を確認して入浴してもらっている。入浴拒否される利用者にはタイミングを見ながら声がけにも工夫し、体調を確認しながら入浴してもらっている。また、季節湯等も実施しており、習慣としてきた菖蒲湯やゆず湯も好評を得ている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝、就寝時間、起床時間については、個々の生活リズムを優先しており、必要な方には安心して入眠出来るよう見守りを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	配薬ミスをなくすため3人の職員で確認している。直前にはダブルチェックを行なっている。処方内容が変更になった場合は申し送りを徹底し、症状の変化に注意し対応している。投薬時は本人確認を徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や能力を参考にして、買い物、調理、掃除、軽作業、園芸作業等に参加していただいている。お誕生会や行事には希望するメニューを用意し楽しんでいただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天候の良い日は近くの神社や保育園、商店街等に出かけている。また、地元のスーパーやホームセンターに買い物に出かけたりしている。行きたいところなど本人に聞き実現できるよう努めている。	日常的な周辺への散歩、お花見、新緑ドライブ、季節行事、紅葉狩り等、四季折々の外出等は全体を対象として行われている。また、利用者の要望に沿った個別の外出支援にも力を入れており、買い物、食事、自宅への帰宅、外泊等、家族の協力を得ながら支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い程度の金銭を所持し、自己管理している方がいる。本人が出かけたり要件を伺い買い物支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話を掛けて安心される方には、その取次ぎを支援している。また、年賀状等の他本人が望まれる際には郵便物の宛名書きやポストへの投函を支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関外にはベンチを設置し日光浴が出来るようにしている。ホールや廊下には塗り絵写真等を飾って明るい雰囲気を作っている。自然光を取り入れ季節毎のお花を飾っている。ソファや和室で気楽にくつろげるようにしている。	共有スペースは開放感のある空間となっており、2階のホールからは地平線に赤々と夕日の沈む様を臨むことができるなど、戸外の様子を楽しむこともできている。ホール内には利用者が職員と共に作成した季節に応じた飾りつけや利用者の作品等の展示も心を和ませるものとなっている。事業所内の温度調整もこまめに行われている等、居心地の良い空間づくりに配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓際にソファを設置しいつでも外を眺められるようにしたり、くつろげるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所される際には、馴染みの家具や品物の他、ご家族等の写真を持ち込んでいただき、家庭に近い雰囲気を作れるように配慮している。	本人が居心地よく過ごせるように、自宅で使い慣れた物を持参してもらい、自宅と変わらない環境で生活出来るよう支援している。思い出の写真や季節の花、自作の絵画を飾ったりと、思い思いに居心地よく過ごせるように工夫されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物全体に手すりが設置されており、安全に移動出来るように配慮している。また、各居室への名前の表示やトイレの表示の他、トイレと居室の区別がつかず混乱される方には必ず同行し配慮している。		